

News Release

2015年8月5日

東急不動産株式会社
トヨタホーム株式会社

インドネシア 西ジャワ州ブカシ県 467戸の大規模分譲地「SAKURA REGENCY 3」が街開き 日系企業が提案する、花と緑の豊かな生活環境の中で安心して子育てが出来る街づくり

東急不動産株式会社(本社:東京都渋谷区、社長:植村仁)とトヨタホーム株式会社(本社:名古屋市東区、社長:山科忠)が現地子会社を通じ、インドネシアで開発を進めている分譲プロジェクト「SAKURA REGENCY 3」で、本日街開きをいたしましたので、お知らせいたします。



「SAKURA REGENCY 3」は東急不動産の子会社である東急不動産インドネシア株式会社(本社:ジャカルタ首都特別州、社長:三輪真也、以下:TLID)とハカ社(本社:ジャカルタ首都特別州、社長:小林利二)の共同プロジェクトに、トヨタホームの子会社であるトヨタホームインドネシア株式会社(本社:ジャカルタ首都特別州、社長:原明宏)が参加して進める大規模分譲プロジェクトで、全467戸の販売・引渡を予定しています。

プロジェクトのコンセプトは「花と緑の豊かな生活環境の中で、安心して子育てが出来る街づくり」とし、インドネシアで40年を超える事業実績を培ってきた東急不動産と、日本で累計10万戸を超える戸建住宅の販売実績を誇るトヨタホームならではの街づくりを進めます。

◆「SAKURA REGENCY 3」街づくりの特徴

- ・近隣と一体感のある環境づくりのため、分譲地入口のゲート手前に緑地公園を設置
- ・明るい環境整備(分譲地と道路の中央分離帯、ロータリーに煉瓦で花壇を設け、花を植栽)
- ・緑豊かな優しい環境整備(ゲート壁面および公園と外部との境界塀部分(外周部)を緑化)
- ・安全に配慮したセキュリティ体制を構築(分譲地全体を塀で囲み、24時間のゲートセキュリティ)
- ・分譲地内の路上に段差を設け、車のスピードを制限
- ・子供と遊べる空間整備(分譲地中央部分の緑化公園、雨の日に子供と遊べる施設)
- ・景観配慮(分譲地内ケーブルの地中埋設)

・保証期間の長期化(2年)

街開きでは、ハカ社のユディ(同社副社長)が「インドネシアにおいて約4,500戸供給をしてきたノウハウを活かし、質の高い住宅を提供したい」と話し、東急不動産インドネシアの三輪が「日本のデベロッパーの強みを活かし、お客様に愛される街づくりを行い、インドネシアの発展に貢献したい」と意気込みを、トヨタホームインドネシアの原が「日本で培った技術を基にした高品質、高耐久、高性能な住宅を通して、インドネシアの方々により安全で快適な生活を提供したい」と街づくりにかける思いを挨拶しました。

【プロジェクト概要】

	東急不動産 (TLID、ハカ)	トヨタホーム (THI)
プロジェクト名	SAKURA REGENCY 3	
住所	西ジャワ州ブカシ県 Jatimulya Indah (ジャティムリアインダー)	
開発規模	112,553㎡(約11.2ha)、467戸	
住宅販売戸数	353戸	114戸
住宅の種類、間取り	組積造平屋 2LDK、3LDK	薄板軽量形構造 (スチールハウス工法) 2階建3LDK、4LDK
代表的な住宅の延床面積	99㎡(50㎡~150㎡)	132㎡
1区画あたりの代表土地面積	138㎡(84㎡~210㎡)	112㎡

【プロジェクトイメージ・位置図】



「SAKURA REGENCY 3」入り口イメージ



以上